

(11)九州



九州地域では、景気は緩やかに回復している。

- ・ 鉱工業生産は高水準で推移している。
- ・ 個人消費は底堅く推移している。
- ・ 雇用情勢は着実に改善している。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(は上方に変更、 は下方に変更)

前回調査からの主要変更点

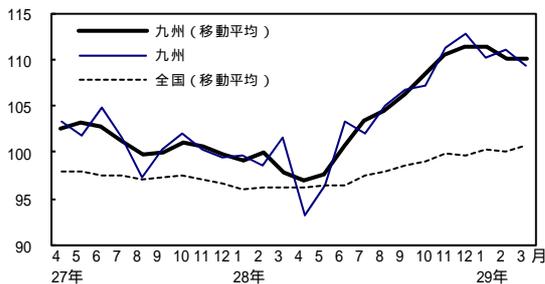
	前回 (平成 29 年 2 月)	今回 (平成 29 年 5 月)	
住宅建設	大幅に増加	おおむね横ばい	

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は高水準で推移している。

1～3月期には、輸送機械は、普通乗用車や鋼船等が弱含んだこと等により減少した。電子部品・デバイス、半導体集積回路(CCD・その他)の生産増等から増加した。はん用・生産用・業務用機械は、ボイラ・蒸気タービンの部品・付属品が前期の反動で弱含んだことにより減少した。化学・石油石炭製品は、プラスチック等の生産増により増加した。

鉱工業生産指数



域内主要業種の動向(季節調整値、前期(月)比)(%)

	付加価値 ウェイト	生産				
		10～12 月期	1～3 月期	1月	2月	3月
輸送機械	24.5	17.8	5.6	7.1	0.6	0.2
電子部品・デバイス	12.3	12.9	0.1	1.9	3.9	12.1
はん用・生産用・業務用機械	11.2	10.4	7.3	6.0	0.4	0.2
食料品	9.6	0.3	0.3	0.5	0.6	1.8
化学・石油石炭製品	8.3	5.2	7.8	3.7	11.0	3.0
鉱工業	100.0	5.5	0.2	2.3	0.7	1.4

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。

2. 1～3月期、3月は速報値。

(備考) 1. 22年=100、季節調整値。九州の最新月は速報値。

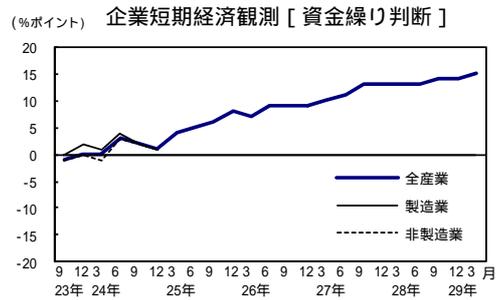
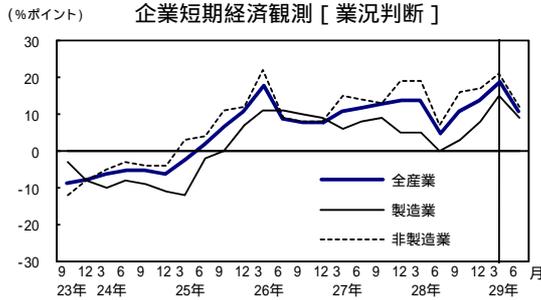
2. 全国及び九州の太線は中心3か月移動平均。

直近月は2か月平均。

(11) 九州

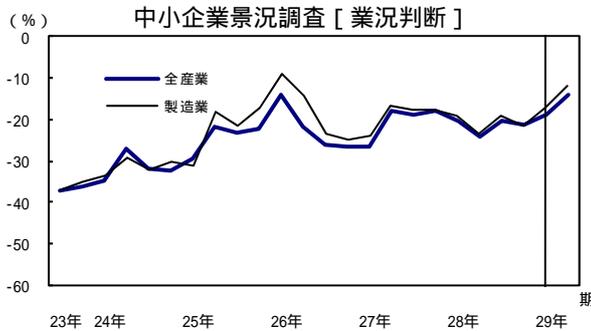
(2) 企業動向の業況判断は「良い」超幅が拡大し、資金繰り判断は「楽である」超幅が横ばいとなっている。

企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。29年6月は予測。26年12月は新・旧基準を併記。

(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。26年12月は新・旧基準を併記。25年3月から製造業・非製造業は非公表となっている。

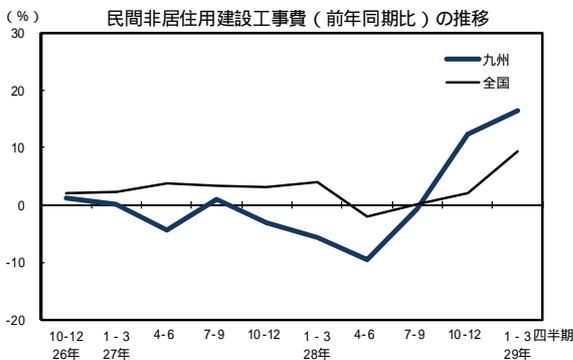


(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。29年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査(4月調査結果)[企業動向関連(現状)]

「今年は桜の開花で変化があったように、気候状況の変化が商品に大きな影響を与えている。4月の前半は菜種梅雨の影響でスーパーマーケット、居酒屋の動きが悪かったが、後半は天候にも恵まれ少し盛り返し、なんとか計画を達成できそうである。冷凍食品メーカーも絶好調とはいかないが、なんとか数字を達成できそうである(農林水産業)」などの回答がみられた。

(3) 設備投資の民間非居住用建設工事は大幅に増加している。



企業短期経済観測調査 [設備投資(3月調査)]

(前年度比、%)

	28年度実績見込み	29年度計画
全産業	20.7 (4.2)	14.4
製造業	33.9 (5.8)	17.5
非製造業	1.4 (2.5)	11.4

(備考) 1.()は前回(12月)調査比修正率。

2. リース会社対応ベース。

3. 沖縄を含む。

2. 需要の動向

(1) 個人消費は底堅く推移している。

地域別消費総合指数 (RDEI (消費))

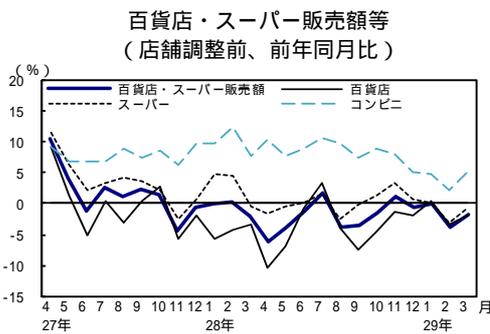
1月は前月比0.4%増、2月は同1.1%増、3月は同0.8%減となった。

百貨店・スーパー販売額

百貨店は、1月は衣料品等の動きが鈍かったものの、飲食料品、高額品等に動きがみられ、6か月ぶりに前年を上回った。2月は前年のうるう年の反動に加え、前年に比べて土日祝日が1日少なかったことなどにより、全ての品目で動きが鈍く、前年を下回った。3月は気温が上がりきれず春物衣料の動きが鈍かったほか、飲食料品、高額品等の動きが鈍く、前年を下回った。スーパーは、1～3月は化粧品等に動きがみられたものの、衣料品、飲食料品等の動きが鈍く、前年を下回った。

景気ウォッチャー調査 (4月調査結果)[家計動向関連 (現状)]

「前年の熊本地震では来店、売上共に苦戦したが、一昨年のペース以上に回復した。3月に暖かくならなかった季節の遅れと合わさって、春物衣料品、手土産などの新生活需要共に堅調である(百貨店)」など、「やや良くなっている」とする回答が増加した。



	29年1-3月	29年1月	2月	3月
RDEI (消費*1)	0.9	0.4	1.1	0.8
百貨店・スーパー(*2)	1.8	0.2	3.8	1.8
百貨店(*3)	1.5	0.3	3.3	1.8
スーパー(*3)	1.2	0.2	3.2	0.8
コンビニ(*3)	4.0	4.7	2.1	5.0
乗用車(*4)	11.2	8.7	13.1	11.3
(季節調整値)(*4)	0.6	2.4	3.1	1.0

(備考) 1. 季節調整前(月)比(%)

2. 店舗調整前、前年同期(月)比(%)

百貨店・スーパーは内閣府にて算出。

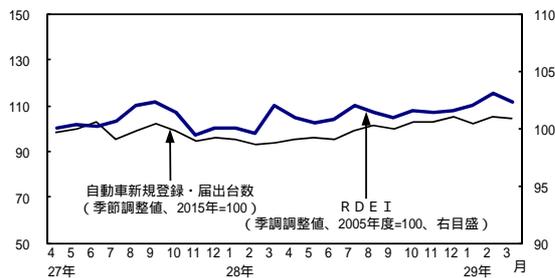
3. 店舗調整前、前年同期(月)比(%)

・百貨店、スーパーは沖縄を含む経済産業省の九州の値。

・コンビニは、経済産業省の九州・沖縄の値。

4. 乗用車は、新規登録・届出台数(上段は前年同期(月)比(%))

RDEI (消費) と自動車新規登録・届出台数の推移



(2) 住宅建設はおおむね横ばいとなっている。

持家が前年を上回ったことから、分譲が前年を下回ったものの、全体ではおおむね横ばいとなっている。

(3) 公共投資は28年度累計でみると前年度を上回っている。

